

前田の〈ちょっと経営を考えよう〉第 285 回

一時よくなった中小企業の経営状態ですが、ここへきてまた少し悪化をし始めています。中小企業の景況は弱い動きが続いています。

特に消費関連業種の動きが、力強さを欠いた動きとなっています。

また建設関連業種もあまりよくありません。

円安による原料単価の上昇、商品単価の上昇の影響や、人手不足による賃金の向上の影響も大きいようです。

ただ原油安に伴うガソリン価格の下落や電気料金の値下げ（たぶん）の影響そして大手企業の生産の国内回帰の動きにより、今後の改善が期待されていることも事実です。

ところで、隠れたチャンピオン企業（世界市場でトップ 3 に入る、知名度は低い）が最も多いのはドイツです（日本は米国について 3 位です）。

隠れたチャンピオン企業の重要な戦略は、狭い分野への特化、専門化です。特定分野に特化するということは、従来の市場を失うことを意味しますが、それでも全体としては売り上げ増につながっています。

なぜか ⇒ 得意とする分野を見定め、それに特化し、その分野で圧倒的な競争力を持つような不断の製品開発の努力を行い、市場シェアを高めていくのが隠れたチャンピオン企業の共通の戦略です。

競争力という意味では、他社が簡単に参入できないような技術的優位を保つとともに、製造は可能な限り部品も含めて自社で行います（秘密を保持するため）。

どうでしょう、少し参考になりましたでしょうか？人材を育成し、技術力を高め、製品力を高めることがいかに必要かですね！！

前田の《今人生を語る》第 190 回

めざめよ日本人 (113)

対人関係で最も大切に考えなければならない重要なことに「安心感」があります。人には他者と関わる時深層心理では「警戒」から始まりますから、まず相手の警戒心を解き、「安心」を感じてもらうことが大切です。

では、どうすれば相手に「安心」を感じてもらえるのでしょうか。

1. 笑う、笑顔
2. 受容、同意
3. 自己開示 ですね

これがうまくコミュニケーションができるための基本ですね。

〈受取配当金益金不算入制度の改正〉

松村英治

株式の保有比率区分ごとに、配当金の益金不算入額が次のように改正されます。

改正前		改正後	
区分	不算入割合	区分	不算入割合
完全子会社法人等 (100%保有)	100%	完全子会社法人等 (100%保有)	100%
関係法人株式等 (25%以上保有)	100% ※負債利子控除	関係法人株式等 (1/3 超保有)	100% ※負債利子控除
上記以外の株式等	50% ※負債利子控除	その他の株式等	50%
		非支配目的株式等 (5%以下保有)	20%
株式投資信託の 分配金	分配額の 1/2(1/4)の 額について 50/100 が 益金不算入	株式投資信託の 分配金	0 (全額益金算入)

※ 負債利子控除について

銀行等からの借入金で株式を購入する場合、その負債利子を損金に算入できる一方、その配当金について益金不算入にできると、二重に恩恵を受けてしまう。

こうした状況を防ぐために、負債利子相当分については益金不算入としない仕組み。

